

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月13日

緑が丘幼稚園

1. 本園の教育目標

1. 心もからだも健康でたくましい子ども（健康）
2. 友だちと心を合わせて仲良く遊ぶ子ども（人間関係）
3. 好奇心・探求心をもって遊びを創る子ども（環境）
4. 友だちと会話を楽しむ子ども（言葉）
5. 豊かな心で表現を楽しむ子ども（表現）

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

【安心感の中で 豊かに遊び 自分らしく輝く】

- ・好きな人・好きな遊びがある中で“やりたい”が膨らむ生活

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの育ちの理解	B	一人ひとりの姿や思い、クラスの今の育ちを理解し、計画・実行・振り返りを行い、保育をすることができた。担任替えをし、他学年の子どもに触れることができた。それぞれの育ちについて理解し、見通しを持つことができた。
2	適切な援助の工夫	B	子どもたちの興味関心が広がるよう、園内研修で教材研究を行い、遊びのバリエーションや援助について学んだ。安心して遊びこめるよう、コーナーを仕切る、場所や玩具を変えるなど、臨機応変に環境構成を工夫した。
3	情報発信の改善	C	ホームページでの発信は行事が主なものとなった。おたよりのアプリ配信、カラー紙面での配布を行った。新システムを導入し、園からの発信、家庭との情報共有がスムーズにできるよう環境を整えた。
4	安全管理の整備	B	業務継続計画を作成し、有事に備えることができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	育ちの理解や援助の工夫をすることで、一人ひとりのやりたい気持ちが育ってきていることを感じる。子どもたちの思いや発想を大切に、寄り添って保育ができた。日々の遊びの様子をホームページで発信できると良かった。業務継続計画を作成したが、職員間での共有には至っていない。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	子どもの育ちの理解	“個の面白さ”と“集団ならではの面白さ”を大切にしながら人（大人・異年齢・子ども同士）とかがかわる中での育ち、関係性の深まりを考える。
2	適切な援助の工夫	保育者間で、保育を見合う機会を作り話し合う中で、様々な意見にふれ、適切な援助を考えていく。
3	情報発信の改善	新システムを使っの園と家庭との情報共有の円滑化
4	安全管理・環境の整備	業務継続計画の共有 防災訓練の見直し 大型遊具の入れ替え

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・公開保育では、安心感を持ち自分らしく遊ぶ様子が見られた。引き続き子ども理解を深め、一人ひとりに寄り添った保育をしていって欲しい。
- ・興味に合わせ遊びを選択できる環境づくりがされ、育ちに合わせた大人のかかわりがあるなど、子どもの思いを大切に保育が行われていた。幼少期の心育は、就学後の子どもの成長にもつながっていくと思われる。
- ・新システム等新しいことを取り入れる良さと難しさがあるが、園の方針を大切に検討し進めてほしい。